

看護実習服のリメイク

Remake of Nursing Training clothes

“つくる責任つかう責任” 企業と学生による SDGsアクション

コロナ禍のため、授業がオンライン中心となった令和2年5〜6月。ふと、「この看護実習服って使い終わったらどうなるんだろう…再利用はできないのかな」と疑問が浮かんだ玉崎葵さん(医学部保健学科4年)。「岡山大学SDGsアンバサダー」として、SDGs(国連の持続可能な開発目標)の普及・推進活動に携わる彼女は、自身の実習服の製造先であるナガイレベン株式会社のHPを確認。同社がSDGsに取り組んでいることを知り、「再利用に向け、一緒に活動が出来ないか」と相談のメールを送ったという。同社からは、「再利用はしていないが、業界全体で考えていかなければならない課題。ぜひ意見交換をしたい」との前向きな返信があった。

広い世界で



看護実習服を

アルコールポシエツト&

ポケットインポケットに

リメイク!



岡山大学の

その後は、看護雑誌の「入職後に一番使うものランキング」や医療系商品を扱う企業のHPを参考に、需要が高く、様々な体形の看護実習服からリメイクが可能な「アルコールポシエツト&ポケットインポケット」にリメイクすることが決まった。

学部の仲間と裁断会を実施 後輩にバトンを繋ぎ、 全国的な活動に!

「使用後の実習服が適切に廃棄・利用されていない」という課題が、実際に起きているかを確認するため、4年生80人を対象にアンケートも実施した。結果は、約4割が後輩に譲る、約3割が捨てる、約1割が記念にとっておくという回答を得た。購入希望の有無や希望価格、デザインについてもヒアリングし、「どちらの商品も購入希望が約7割得られ、やっと企画が現実的になりました」と話す。

「私はアイデアを提案し、商品化を実現してくださったのはナガイレベンさんです。パタンナーさんやデザイナーさん、工場の方々が何度も試行錯誤してくださ

いました。そして、企画のマネジメントは、最初のメールに対応してくださった長尾卓様です。ナガイレベンさんのご尽力があって今回の企画が実現しました」。学部の仲間にもSDGsを自分ごととしてとらえてほしいと、3月には裁断会を実施した。

今後は、活動を継続していくため後輩にバトンを繋ぎ、全国的な活動にしていきたいという玉崎さん。「SDGsは概念が広く、自分自身理解不足の面もあるので、もう一度考え直す必要があると思っています。忙しいけど、充実感があるって楽しい!人脈も広がりました」とハツラツとした表情で語る。思い出の詰まった実習服のリメイク品。卒業後はきつと彼女らの精神的な支えとなり、日々を刻むことになるだろう。

たま さき あおい
玉崎 葵

医学部保健学科
看護学専攻4年
SDGsアンバサダー

